



長町中は今

夢に向かって全力疾走！長町中

《校訓》
自主
友愛
健康
創造

令和元年11月27日
仙台市立長町中学校
学校だより 第14号
電話：(248)1444
<http://www.sendai-c.ed.jp/~nagajh00/>

被災地交流 第9回神戸マラソン オープニングセレモニー参加報告！！



第9回を迎える神戸マラソンは、阪神淡路大震災からの復興と、国内外のみなさんから温かい励ましに対する「感謝」の気持ちを表す大会で、今回は震災後25年の節目に開催しました。「感動と友情」をキャッツフレーズに約20,000人のランナーが神戸の街を駆け抜けました。長町中学校は、生徒会活動やボランティア活動が盛んな学校で、長年合唱に取り組んできたことから、仙台市教育委員会を通して神戸市教育委員会からご招待いただきました。今回は、11月15日(金)～17日(日)の3日間の様子について紹介します。

参加生徒 2年 8名

S・Rさん N・Kさん S・Kさん K・Sさん T・Kさん O・Hさん O・Mさん Y・Nさん

1日目 11月15日(金)

☆仙台空港 10:25 出発 神戸空港 11:55 着☆

☆14:10～15:30 神戸市内中学校との交流会(本多聞中学校)☆

神戸市立本多聞中学校を訪問しました。本多聞中学校のみなさんからは、歓迎の合唱を披露していただきました。その後、長町中からスライドを使った学校紹介をし、8人で合唱を披露しました。本多聞中では、神戸と仙台をつなぐ書籍なども展示していました。最後に、代表生徒と記念撮影を行うなど、短い時間でしたが、お互いの「絆」が深められた交流会になりました。



☆16:45～17:30 仙台・神戸フレンドシップコンサート☆

1日目の大きな行事である「仙台×神戸フレンドシップコンサート」が、神戸市デュオこうべの浜の手デュオドームにて行われました。出演は生徒8名のほか、伴奏者として木下真理子先生、進行役としてアカペラグループ「チキンガーリックステーキ」バリトン歌手の前澤弘明さんが進めていただきました。会場には、約300名が集まり、計6曲をストリートピアノの伴奏で披露し、長中生の歌声に聴き入っていました。中には涙を流して聴き入っている方もいらっしゃり、歌の力が多くの方々に元気と感動を与えるものだと実感できたコンサートになりました。アンコールの拍手もいただき、最後は「いのちの歌」を披露し、神戸市のみなさんから、心をこめた歓声と大きな拍手をいただきました。



2日目 11月16日(土)

☆10:00~12:00 神戸市立鷹匠中学校と合同練習会☆

11月17日(日)は、神戸マラソンスタートセレモニーにて、長町中学校と神戸市立鷹匠中学校が合同で、阪神淡路大震災からの復興を願い作曲した「しあわせ運べるように」を合同で歌うことになっていました。本番に向けて両校の顔合わせと自己紹介を行いました。長町中からは、今回招待いただいたことへの御礼と、仙台市や長町中の紹介を行いました。その後、合同で「しあわせ運べるように」の練習を行いました。



3日目 11月18日(日)

☆8:30~ 神戸マラソンスタートセレモニー☆

いよいよ最終日、神戸マラソンスタートセレモニーを迎えました。ホテルを出発し、8:30から行われるスタートセレモニーに参加しました。会の最初に阪神淡路大震災、東日本大震災、その他の自然災害で亡くなられたすべての方へ鎮魂の思いを込めた黙とうを捧げました。その後、国内外のトップマラソンランナーの紹介を経て、「しあわせ運べるように」の合唱と続きました。長町中生8名と鷹匠中23名が合同で「しあわせ運べるように」の合唱を披露しました。指揮は、この曲を作詞・作曲した臼井真先生自らとってくださいました。そして、曲の終わりにはランナーのみなさん、ボランティアのみなさんが着用した黄色のひまわり手袋で両手を大きく広げ、大輪のひまわりが見事に咲きました。会場からは合唱を終えた両校の生徒に惜しみない拍手が湧きあがりました。復興と感動・友情をテーマにした神戸マラソンのスタートにふさわしい、すばらしい合唱になりました。ランナー達も一緒に口ずさんでいたのがとても印象的でした。



(両校の合唱の様子)



(スタートの合図)



(ひまわり手袋で記念写真)

☆12:15~ 長町中学校へ感謝状贈呈式☆

会の終わりに、長町中学校へ感謝状贈呈式が行われました。東日本大震災の被災地・宮城県から参加した本校に対する感謝状です。はじめに、神戸新聞社代表取締役高梨柳太郎社長からの贈呈、続いて朝日新聞社代表取締役大阪本社代表藤井龍也様から、それぞれ感謝のことばをいただきました。私達長町中は、御礼の意味を込めて「Tomorrow」を合唱しました。その後それぞれの新聞社から感謝状を頂いた後、長町中を代表して2年S・R君からこの3日間への感謝の気持ちをこめてあいさつを行いました。

この3日間を通して感じたことは、「神戸の方々は震災を忘れていない」と「今も復興に向けて心をひとつにしている」ことです。私達被災地の宮城県を代表して訪れた際にも、東日本大震災のことを神戸の方々は忘れず、震災について共感を持っていることです。私達も被災地・宮城の一員として「復興とは何か」「私たちはこれから何をすべきか」という問いを改めて考えさせられた3日間になりました。今回の被災地交流事業を支えていただいた全ての方々に感謝申し上げます。

